

# 丸山眞男文庫所蔵図書・草稿資料類の整理作業の経緯と現状

丸山眞男文庫顧問 松沢弘陽  
同 平石直昭

丸山眞男が遺した膨大な蔵書や各種草稿資料類は、一九九八年九月に丸山家から東京女子大学に寄贈され、一九九九年春から同大図書館の丸山眞男文庫室に収蔵されている。

このうち雑誌図書類に関しては、図書館員による基本的な整理が終っており、二〇〇一年春に、受贈の記録として仮目録『丸山眞男文庫寄贈図書資料目録』が作られて丸山家に届けられた。関係者にも配布されている。それによれば、和漢書は約一万五千冊、洋書は約二千冊、和・洋雑誌がそれぞれ約千タイトル・百四十タイトルにのぼる。丸山の思想・学問の形成を見るうえで不可欠の図書資料が多く含まれている。「国立情報学研究所総合目録データベース」に準拠した目録情

報が同図書館のコンピュータ内部に構築されている。

蔵書の中には『文明論之概略』など、丸山が書きこみや線引き、折りこみなどを行った書物が約三千部以上ある。これらは丸山研究にとって貴重な資料的価値をもっているが、一般に公開するには、予め調査して正確な知識をえておく必要がある。長年月の間には、どれが丸山による書きこみ等であるか不分明になる惧れがあるからである。また貴重書については、原本の劣化を避けるためデジタル資料による供用が考えられるが、その選定のための事前調査が必要である。さらに手沢本の目録作りが計画されており、そこには個々の図書に対する書きこみや傍線の頻度などに関する情報も付される予定である。

以上のような諸事情から、丸山の蔵書全体を一般公開するにはなお

しばらく時間がかかると予想される。このため図書館では、手沢本以外の蔵書類を中心として、二〇〇五年四月から部分的な公開を行う方針を立てている。

一方、草稿・ノート類を中心とした各種資料類に関しては、一九九九年秋から専門家による調査が始まり、二〇〇三年秋に一応終了した。資料ごとに内容、分量、執筆時期、既発表論文との関係などが調査された。ただ、実際にこれらの資料類を一般の利用に供するには、検索用の目録が必要であり、そのためには上記の調査をふまえた資料のより詳しい調査と分類がなお必要である。現在そのための具体的な調査・整理の作業が進んでいる。また草稿類についても、劣化を避けるためデジタル化した資料を供することになるが、そのための資料選定も必要である。こうした事情で、草稿資料類の一般公開のためにはなお二〜三年を要すると思われる。

資料の数はそれに付した仮番号で数えれば約一〇八〇になる。しかし段ボール一箱で一番号のような場合もあり、全体でどの程度の分量になるかなお確実なことは言えない。内容は、初期からの各種草稿や執筆メモ類、講義・演習のための原稿・準備ノート類、ウェーバー・ヘーゲルなどの読書ノート類、テーマ毎の資料抜粋集、南原繁の『政治学史』など学生時代の受講ノート類、各種研究会・シンポ等の関係文書、外遊時の諸記録や来簡類、座談会やインタビュー等のテープ起し原稿類、法学部・大学院関係文書、各種知識人運動関係資料、日記・

覚書類など、広汎で多岐にわたる。

他に丸山家に保管されていた丸山宛の来簡類(段ボール二十二箱分)も、二〇〇四年夏に同図書館の丸山文庫室に搬入された。また平和問題談話会における丸山の活動に関わる資料として、岩波書店の故吉野源三郎氏が保存されていた同会の一次資料(段ボール二箱分)が二〇〇三年に同図書館に寄贈された。生前吉野氏は丸山と親交があり、彼を説いて平和問題談話会の活動の中心に据えた人である。

なお東京女子大学のホームページ (<http://www.twcu.ac.jp/>) により、丸山文庫、及び同大学の丸山眞男記念比較思想研究センターが主催する読書会や記念講演会等に関しても情報を得ることができる。

二〇〇五年二月一二日